

再び陸前高田市へ

10月16日 支援活動

昭和40年、豪雪の沢内に
救援苗を届けてくれた陸前
高田市に恩返ししよう、と、
深澤晟雄の会では津波で被
災した陸前高田市に7月
10日、炊き出しなどの支援
活動を行いました。その第
2弾として10月16日に再
び同市を訪問します。

陸前高田市では毎年10月
第3日曜日に全国太鼓フェ
スティバルが開かれ、今年
は16日がその日。しかし、
震災で開けないため
名古屋市が会場提供
を申し出ています。

そこで、当日はさ
わうち太鼓の演奏で
陸前高田市民を元氣
づけようと前回に続
いて参加します。ま
た、坂本神楽団、深
澤晟雄の会さくら組
が初参加で舞台を盛
り上げ、最後は会場
総参加で「沢内さん
さ」で閉めます。

当日は深澤晟雄の
会の活動に賛同する



震災がなければ10月16日は全国太鼓フェスティバルの日。さわうち太鼓が今回も復興太鼓を響かせます。

町外からも参加します。二
戸市のエレキバンドグルー
プが舞台の音響を設置。盛
岡市の中井寿司が現地でお
寿司を握って提供します。

深澤晟雄の会ではきのこ
汁や岩魚等の調理手伝い、
会場設営等のボランティア
を募集します。小中高校生
の希望者も受け付けます。参
加希望者は深澤晟雄資料館
に申し込みください。
(電話85-3838)

大学の調査研究を支援

資料充足
の機会に

今年も深澤晟雄資料館
を通して、大学教員による
学術研究のための現地調
査が行われました。

8月23日から5泊6日
の日程で岡山県の就実短期
大学と兵庫県の間西福祉大
学の先生2人が来町、生命
行政を背景とした「子育
ち・子育ての社会的支援」
をテーマに聞
き取り調査が
行われました。

千葉県の淑徳大学の先生
は8月29日から4泊5日
で、深澤村政と歴代村長の
施策、町村合併から今後の
課題まで、旧湯田町を含め
た調査活動を行いました。

深澤晟雄資料館が調査活
動をサポートしましたが、
その過程で資料館収蔵資料
の不足を補う対策や先生方
の研究成果の提供をお願い
するなど、資料充実対策の
機会ともなりました。

10月の

「いのちの山河」上映情報

- 10. 2 岡山県高梁市文化ホール
- 10. 21 埼玉県飯能市民会館小ホール
- 10. 22 石川県能美市・寺井地区公民館
- 10. 22 富山県入善町・コスモホール
- 10. 29 同上黒部市・国際文化センター
- 10. 30 同上魚津市・新川文化ホール

上映会場近くの知人・友人に
知らせてあげましょう。

岩手大学で講義

佐々木副理事長
深澤精神を語る



震災復興にこそ 深澤精神生かせ ～受講生の感想～

深澤晟雄の会・佐々木孝道副理事長が岩手大学全学共通教育科目「持続可能なコミュニティづくり実践学」の講師に招かれ、去る6月8日140人の学生を前に「自分たちで命を守った村からの報告」と題して講義、深い感銘を与えました。

情熱と熱意の人

深澤晟雄という名をきよ
う初めて聴いた。日本一最
悪の乳児死亡率をゼロにし
たことは本当に凄いと思う。
状況を変えるために今何を
すべきかを適確に見抜き、人
並みでない情熱、熱意を持っ
た人である。

私は宮城県名取市出身で
ボランティアで一ヶ月沿岸
部に行ってきた。被災地で
大変な生活をする人々に若
い自分は何ができるか、そ
れを考え実行していきたい。
(人社・国際文化 Iさん)

今こそ深澤精神

心に残ったのは「憲法で
いう最低限の生活さえでき
ない人がいる。それを守る
のが国の役割なのに、国が
やらないのなら私がやる」
という言葉です。

震災被害に直面している
今こそ、深澤さんのような
人が必要とされている。私
はそのような人の登場を待
つばかりではなく、熱意を
持って行動できる人間にな

りたい。(教育・学校教育
教員養成 Fさん)

政治姿勢に感動

深澤さんが乳児死亡ゼロ
を実現するまでの情熱的な
姿勢に感動した。まるでド
ラマのような深澤さんの業
績に驚いた。

今回の講義では物事を成
功させるには、情熱と様々
な視点から問題解決をめざ
すことが大切だということ
を学んだ。

(農学・獣医学 Oさん)

命の大切さ思う

深澤さんの言うことは全
て理論的で熱意が伝わって
くる。その情熱に感動した。

3・11を経験して、命が
あることの大切さを改めて
感じた。犠牲者の遺族の気
持ちを考えると本当につら
い。生きていることの大切
さを忘れないようにしたい。

(農学・獣医学 Nさん)

深澤は命の原点

私たちが健康で育ち、乳
児の為の施設設備が整っ
ているのも、そもその原
点は深澤村長だった。

深澤さんの行動・言葉に
感動した。長と言うものは
「村を良くすること」を主張
するが、「人間関係を良くす
る」長はめつたにいない。
(教育・芸術文化 Nさん)

涙より汗流そう

「被災地でのボランテ
ィアをしているか？」の問
いに手を挙げそびれたが、
私も大槌町で家屋の泥だ
しやゴミ出しを手伝った。

県外の人たちよりも被
災地に近い私たちがもつ
と積極的に手伝いに行く
べきだ。涙を流すのではな
く、復興に向けてたくさん
の汗を流したい。

(人社・国際文化 Sさん)

金一封 に感謝

西和賀町沢内字新町 有馬 正様
秋田県鹿角市花輪

新日本婦人の会鹿角支部様